

【指定討論】

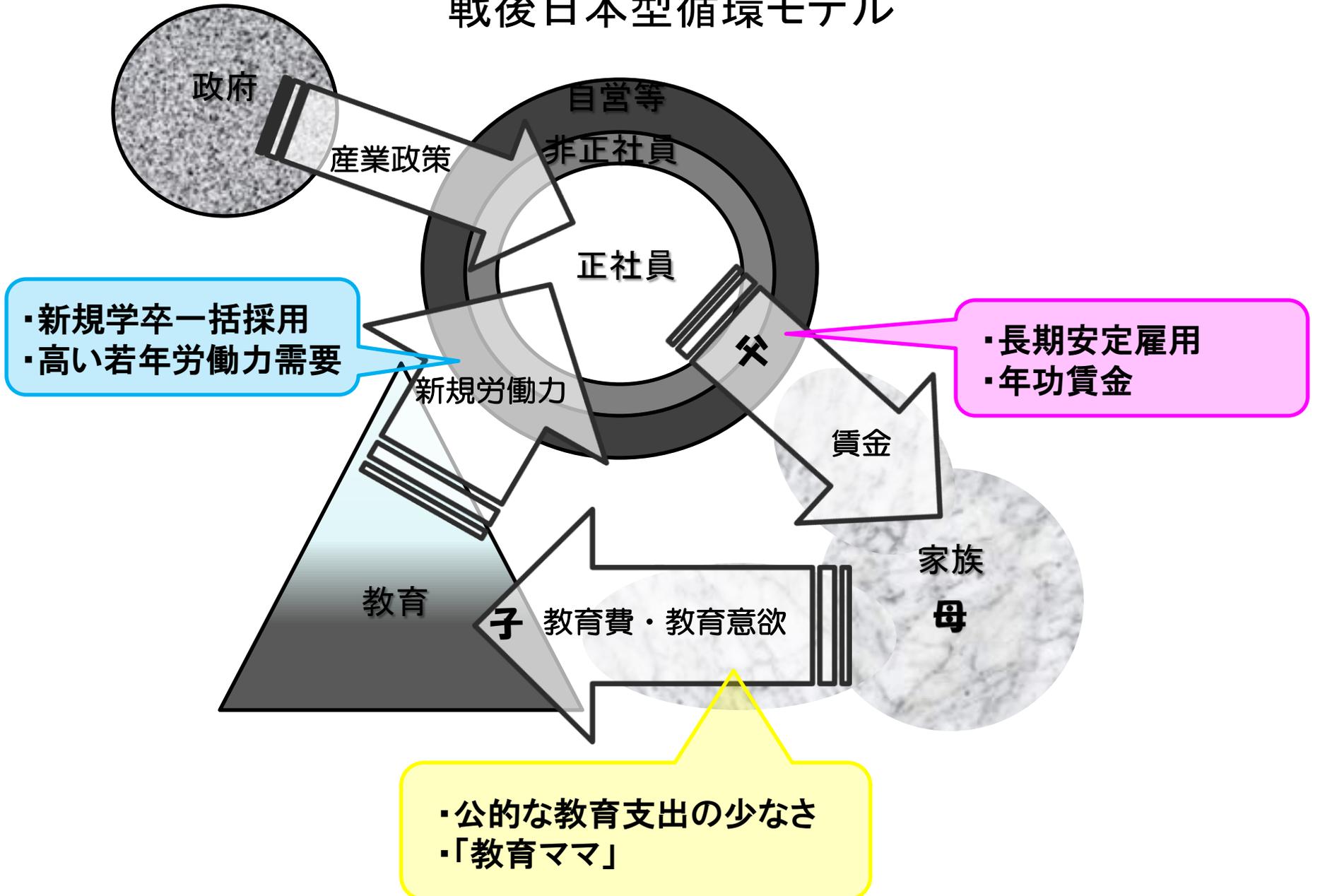
何のためのカリキュラムか？

本田由紀

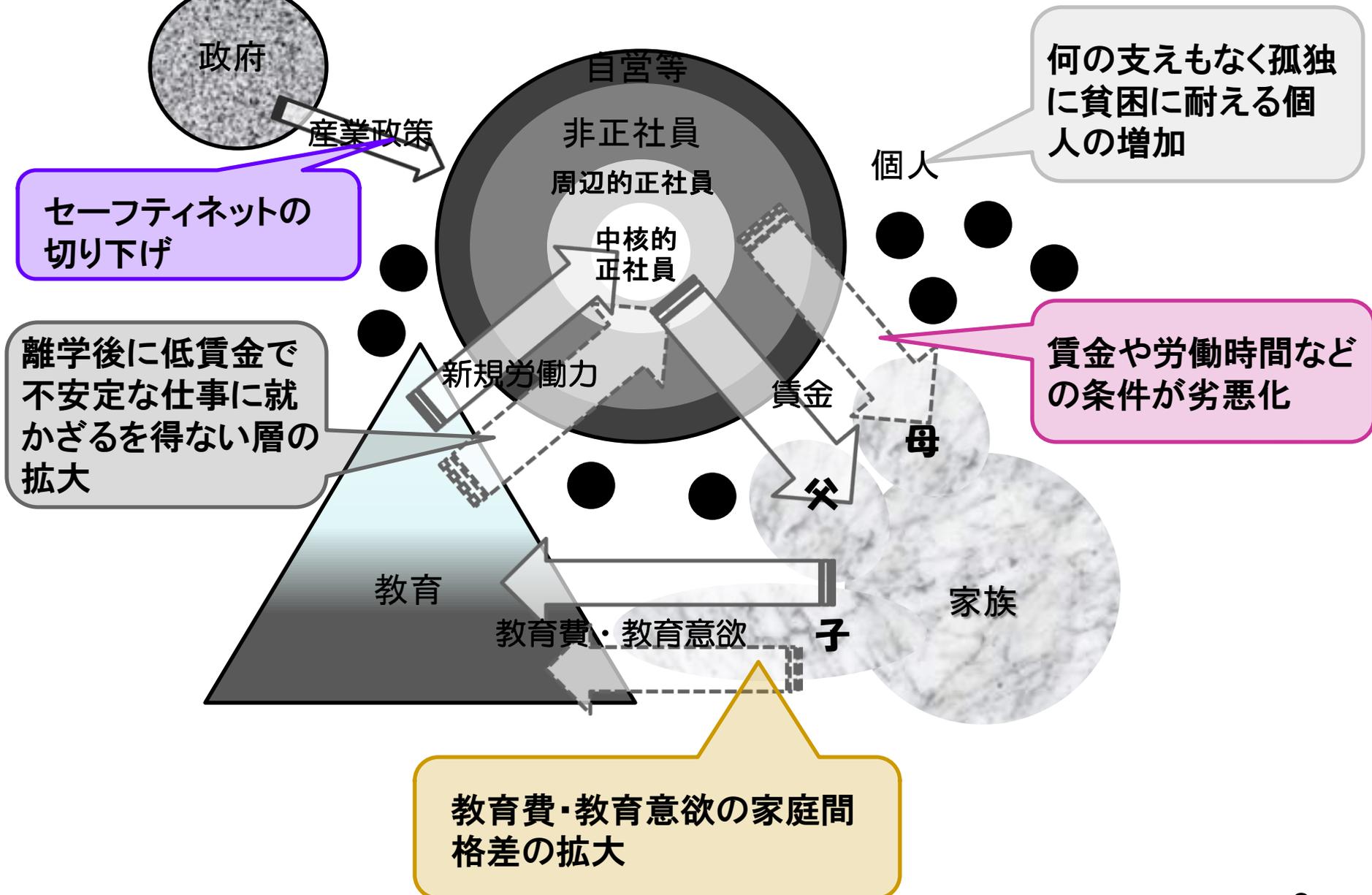
東京大学大学院教育学研究科

比較教育社会学コース 教授

戦後日本型循環モデル



戦後日本型循環モデルの破綻



循環構造とその崩壊が若い世代にもたらした2つの〈不幸〉

• 物質面での〈不幸〉

- ・出身家庭が保有する諸資源(経済的・文化的・社会关系的...)が子世代の教育達成・社会的地位達成に対し直接に影響
- ・離学後に仕事から得られる賃金の少なさや雇用の不安定性、あるいは長時間の過重労働により生活や健康が成り立たない層が膨大に出現
- ・希少化した豊かさや安定をめぐる争奪戦の激化

• 精神面での〈不幸〉

- ・崩壊以前から各領域の「意味」の空洞化が進行
- ・「よくなっていく明日」と「標準的な人生」の共有が不可能に
- ・崩壊後に個人が直面する過酷な状況への解釈図式の不在と「能力主義」の内面化による「自己責任」化
- ・不透明な将来展望、社会への不満
- ・寸断された各層間・世代間・個人間の憎悪・軽蔑・無視

これらの〈不幸〉に対して 教育は・(新たな?)カリキュラムは、 何ができるのか

- 今回の学習指導要領の改訂(高密度化、要請の増大)は子ども・若者の現実にとって何を意味するのか。
- 「健全な生活を営んでいる「一般市民」」をモデルにした人間力とは? 誰? 平板? 当てはまらない者は排除?
- 「20世紀型」カリキュラムの発想が強固に存続したまま「ガラパゴス化」しつつあるように見える日本をどう変えうるのか。
- 「21世紀型」カリキュラム(ex.協働的なプロジェクト型学習)は教育達成の格差やそれに基づく選抜を克服しうるのか。

- 言語力は家庭の文化的資源の格差を反映しやすいが、それをいかにして克服できるか。言語力を何に対して・何のために・どのように用いるのか。
- 結局のところ、「働くこと」の厳しい現実に対していかなる理解が子ども・若者にとって必要であり可能なのか。それをどのように伝えるのか。
- 教育・カリキュラムを通じた、「プロセスとしてのわたし・わたしたちの生成の自由を保障すること」がいかにして可能か。プラットフォームとは何か。オートポイエティックなシステムはプロセスと排他的でない。
- 何について・何のために、「わかる学力」が必要なのか。協同探求は常に相互承認的關係をもたらすのか